ロタウイルスワクチンを受けられる人へ（ロタウイルス予防接種説明書） 音更町

定期予防接種は、音更町に住民票がある人が対象です。
長期間の里帰りや、疾病などで町の指定医療機関以外で接種する必要がある場合は、事前に保健センターにお問い合わせください。

1 ロタウイルス感染症とは

ロタウイルスは、口から侵入し、腸管に感染して発症します。感染力が非常に強く、手洗いや消毒等をしっかりしても、感染予防をすることが難しいため、乳幼児のうちに、ほとんどの子どもが感染します。下痢や嘔吐は 1 週間程度で治りますが、脱水症になる場合もあり、乳幼児の急性胃腸炎の入院の中で、もっとも多い感染症です。一生のうちに何度も感染するウイルスですが、初めてロタウイルスに感染した時は、特に重症化しやすく、まれに脳や腎臓に影響をおよぼすこともあり注意が必要です。

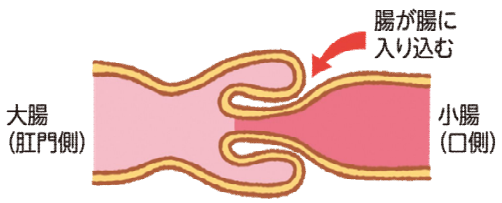
2 ロタウイルスワクチンについて

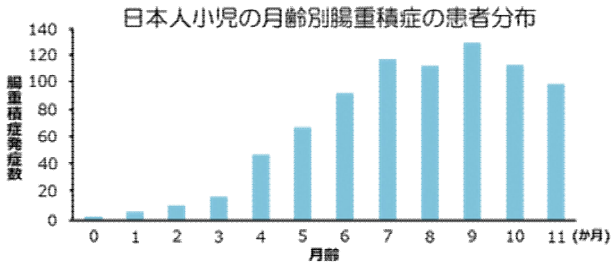
ロタウイルスワクチンは 2 種類あり、どちらも飲むタイプの生ワクチンです。
医療機関で相談し、どちらかのワクチンを選んでください。
2 種類とも、効果や安全性に差はありませんが、接種回数が異なります。原則、途中で種類の変更はできませんので、最初に接種したワクチンを 2 回目以降も接種します。どちらのワクチンも、ロタウイルス胃腸炎の発症を 7～8 割減らし、入院が必要となる重症化のほとんどを予防できます。

ワクチン名	ロタリックス（1価）	ロタテック（5価）
接種時期	出生6週0日後から24週0日後まで	出生6週0日後から32週0日後まで
	※どちらのワクチンも、**初回接種を、生後2か月から出生14週6日後までにします**。 出生15週0日以後の初回接種はおすすめしません。	
接種回数	2回接種（27日以上の間隔をあける）	3回接種（27日以上の間隔をあける）
効果	両ワクチンとも全てのロタウイルス胃腸炎を約80%予防し、重症のロタウイルス胃腸炎に限ると、その予防効果は約90%です。この予防効果はその後2～3年続きます。	
接種後、 特に注意する事	どちらのワクチンも、接種後（特に 1～2週間）は腸重積症（後述）の症状に注意し、症状が見られた際には、すみやかに接種した医療機関を受診してください。	

《腸重積症について》

腸重積症とは、腸管に腸管が入り込み、腸が閉塞状態になることです（下図）。
ワクチン接種後1週間程度、腸重積の発症が、わずかですが上がる可能性が知られています。
0 歳児の場合、ロタウイルスワクチンを接種しなくても起こることがある病気で、ワクチンを接種しなくても注意が必要です。
もともと、4～5か月齢ぐらいから月齢が上がるにつれて多くなるため（下のグラフ）早めにワクチンを接種を完了しましょう。





腸重積症は、手術が必要になることもありますが、発症後、すぐに治療すれば、ほとんどの場合、手術をせずに治療できます。以下のような症状が見られた場合は、すみやかに医療機関を受診してください。

■泣いたり不機嫌になったりを繰り返す　■嘔吐を繰り返す
■ぐったりして顔色が悪くなる　■血便が出る

3　受ける前の注意点

(1)この説明書をよく読み、必要性や副反応等について十分ご理解ください。

(2)接種当日は、接種直前(30分以内)の授乳を控えてください。

なお、飲むワクチンのため、ワクチンがうまく飲めなかったり、吐いてしまった場合でも、わずかでも飲み込みが確認できていれば、ワクチンの効果に問題ありませんので、再度飲みなおしする必要はありません。

4　予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残す等の健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額で支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了するまたは障害が治癒する期間まで支給されます。

ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因(予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等)によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

※給付申請の必要性が生じた場合には、診察した医師、保健センターへご相談ください。

5　予防接種を受けることができない人

(1)明らかに発熱(通常 37.5℃以上をいいます)のある人

(2)重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人

(3)過去に同じワクチンで強いアレルギー反応が出たことがある人

(4)未治療の先天的消化管障害のある人

(5)過去に腸重積症を起こしたことがある人

(6)重症複合型免疫不全(SCID)を有する人

(7)その他、医師が不適当な状態と判断した人

6　予防接種を受けるに際して、医師とよく相談しなくてはならない人

(1)心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患及び発育障害等の基礎疾患のある人

(2)過去にけいれんの既往のある人

(3)過去に免疫不全の診断がなされている人

(4)接種液の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある人

(5)輸血またはガンマグロブリンの投与を受けたことがある人

(6)胃腸障害(慢性下痢など)がある人

7　予防接種を受けた後の注意事項

接種後 30 分程度は急な副反応が起こる場合があるので、お子さんの様子に注意してください。ぐったりする、泣きと不機嫌を繰り返す、顔色が悪い、繰り返し起きるおう吐、イチゴジャムのような血便などの症状が見られた場合は、腸重積症の可能性があるため、すみやかにかかりつけ医の診察を受けてください。

接種当日は、入浴は差し支えありませんが安静に過ごしてください。接種後、4週間は副反応の出現に注意してください。

不明なことがありましたら、保健センターにお問い合わせください(電話　0155－42－2712)